

公表

令和6年度 児童発達支援 自己評価総括表

○事業所名	おひさまはうす					
○保護者評価実施期間	令和7年2月15日 ～ 令和7年3月19日					
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43名	(回答者数)	27名	(回答率)	62.79%
○従業者評価実施期間	令和7年3月10日 ～ 令和7年3月24日					
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名	(回答率)	100%
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月27日					

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団療育では、小集団ならではの「ていねいな関わり」と「なかま作り」を大切にしていること。	子どもの発信を受け止めて返したり、子どもの思いをくみ取り言葉にしたりすることで、大人への信頼感をもてるように関わっていること。友だちと遊んで「楽しかった」という経験を積み重ねられるようにしていること。	ふりかえりの中で、「ていねいな関わり」「なかま作り」に焦点を当てて、できていることや困ったことを全体で共有したり、解決に向けた話し合いをしていく。
2	集団療育では、「絵本シアター」を通して子どもたちのイメージ力を育てていること。	聴覚や視覚など多方面から子どもたちの心や体に働きかけることで、言葉の土台となるやりとりを楽しめるようになっていくことや子どもたちが真似っこしたり伝えたくになったり人とのやりとりを引き出すこと。	子どもたちの興味関心に合わせながら、絵本シアターの題材を増やしていく。 音楽療法士と連携を深めていく。
3	集団療育では、週1回は園外に出かけて、心と体を育てていること。	公園などのアスレチック遊具で遊んだり、追いかけてこをしたり、友だちが楽しそうに遊んでいる姿を見て「おもしろそう」「やってみたいな」と心が動き楽しく遊びながら心も体も育てていくこと。	集団療育では、利用者5人に対し3人の職員配置で、丁寧な支援を行っている。子どもの様子に合わせて園外に出かけるときは安全に配慮して職員人数を増やしていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	部屋の大きさに対して、来年度以降、就園した子どもたち(第2土曜利用児)の人数が多い。	終了児を継続して支援していくため、来年度から全員を受け入れることにした。そのため、児童発達支援の部屋が人数に対して、十分な広さがない。	放課後デイサービスの部屋を使い、二部屋で活動していく。
2	保育所や認定こども園、幼稚園などとの交流や地域で他の子どもと交流する機会が少ない。	地域の園とのつながりが薄く、交流のきっかけが作りにくい。	公園等で出会う園児や地域の子どもの子どもたちと交流する機会を大切にしていく。
3			